



恋するキミの代弁者

～禁断編～

キミイ

寝顔

熱愛

いつも傍に

君を想う

先が見えなくても

鍵をかけて

別れ際

飛べない鳥

求め合う

愛欲

疲れてる

甘えたい

SOS

残酷な優しさ

セフレ

恋人

もう少しだけ

前夜

まだ

行けるとこまで

最後のあなた

サヨナラ愛しい人

寝顔

あなたの眠る横顔を

なんとなく見ていた

睫毛とか鼻とか

唇とか

どうして

ひとつひとつが

愛おしいんだろう

小さなホクロ

こんなところにある

それさえも

愛おしい

ピクリと眉毛が上がった

ふふふ...

なんだか無防備で可愛い

私も眠ろう

あなたの肩にちょこんと額をつけて...

あなたが繋いだ手を離さないから

私は安心して夢の中に入ってゆける

静かに流れる時の中で

穏やかに分かち合える

つかの間の二人だけの眠り

熱愛

あなたの視線がジリジリする

熱いよ

熱い

あなたの手が私に触れる

ヤケドしそうよ

沸騰直前

あなたの唇が私をなぞる

ああ

溶けそう

溶けてしまう

あなたと私が重なる時

私はあなたに

墮ちる

墮ちる

とろけて

なくなりそう

それぐらい

私はあなたに溺れてる

とことん溺れて

とことん墮として

燃え尽きるまで

愛し合う

吐息がひとつになる

熱い恋

目が眩むほどの

ときめき

先はிரないから

今欲しい

キリキリするほど

苦しくて切なくて

私はあなたに熱愛中



いつも傍に

あなたの俯く横顔に

少しの寂しさと

空虚を感じた

あなたが話す自分の事

あなたの過去

きつときつと

沢山の事を

一人で乗り越えてきた

それは

きつと

信頼や愛に裏切られ

自らも罪を重ね

人を踏み台にして

ここにいる

ねえ

こっちを向いて

あなたの頬を取り

そっとキスをするわ

そして

私より大きなあなたを

抱きしめてあげる

大丈夫よ

私がいる

これからはあなたの傍に

必ず私がいるから

疲れた時は

私の胸で

少し休んで行けばいい

たとえ

あなたに会えない日が

きたとしても

私はここにいる

いつでも

あなたを癒せるように

両手を広げ

待っているから

心はいつも

あなたの傍に

あなたの進む道を

柔らかく照らしてる

君を想う

なんにも変わらない毎日だ

僕の日常には何の変化もない

ただ、家と仕事の往復

だけど心にはいつも君がいる

ふとした時

想うのは君だ

君はなにしてるんだろう

君はどこにいるんだろう

ご飯は食べたかな？

今頃は買い物かな？

風呂には入っただろうか？

もう寝てしまったかな？

そんなふうに君に会えない日は

見えない君を想い浮かべる

君は会いたいと寂しがるが

それは僕も同じだ

君のように駄々はこねたりしないが

僕だって無性に会いたくなる時もある

君を想い切ない胸を抱え

夜を過ごし

せめて夢で会えたらと願う

君の声が聴きたいよ

甘くねだるような君の声

君を抱きたいよ

か細く折れそうな華奢な身体

君とキスをしたいよ

柔らかく溶けそうな君の唇

今すぐ君を愛したい

今日は君と大したメールもできなかった

明日の君は拗ねているかな？

朝一番に君にメールしよう

そしてできたら

君と話したいな

次に会える日まで

指折り数えて楽しみにしてる君

僕はとても愛おしく思う

君が思うより

僕は君が好き

毎日

君を想う



先が見えなくても

あなたの嘆きが

胸に突き刺さる

あなたの悲しみが

心を揺らす

抱きしめたいのに

あなたが遠くて

キスしたいのに

あなたが見えなくて

こんなにも

こんなにも

愛してるのに

捨てれない愛もあるから

私は行けない

せめてこの想いだけでも

あなたの傍に

そう願うが

愛は貪欲だから

それだけじゃ足りなくなる

走り出した私達の愛は

どこに向かっているのだろう

もう夢を見ている甘い恋だけじゃ終わらない

この先に何があるかは

誰もわからない

それでも

私は突き進む

あなたへの愛が尽きるまで

鍵をかけて

どうして

こんなにもあなたは私を切なくさせるのですか？

もう終わったはず

なのに瞼を閉じれば

浮かぶのはあなたの微笑み

優しく私に向けるあの眼差し

あなたの心に伝わる熱い言葉が今もなお

私の心を締め付ける

もし

私が今もあなたを愛してしまったら

怖いの

失う事が

手放せなくなるわ

きつと きつと

明日さえ見えなくなるほど

愛してしまう

だから

そっと胸に終おう

あなたへの愛に

鍵をかけて

別れ際

別れ際

今にも泣きそうな君

君の視線は切なくて

僕の胸は張り裂けそうになる

今すぐ連れ去りたい

出来るなら握ったこの手を離さないで

二人だけで

誰も知らない世界へ

逃避行

アラームが鳴る

時間切れだ

現実の世界では

君と僕は他人

また会える日まで

どうかこの愛が消えないように

溢れる想いと共に

君をキツく抱きしめる

別れ際一分一秒

離れたくない僕達は

苦しい程の口づけで

互いの気持ちに蓋をする

次会った時は

また僕の口づけで

この愛を解放しよう



飛べない鳥

苦しんでる

嘆いてる

泣いている

愛しい人が

助けを求めてる

なのに何故私は飛べないの？

誰かこの鳥籠の鍵を開けて！

もがいてもがいて

鍵は開いた

だけれども

今度は

翼が折れて

飛べないの

私は

ずっとここにいなきゃ

せめて

心だけは

あなたの側に

私の想いを飛んでゆけ

求め合う

分からない

分からない

何故にこんなに会いたくなるの

抑える事が出来なくなって

私達は引き寄せられる

分からない

分からない

何故にこんなに欲しくなるの

私達は溢れ出した感情のまま

唇を重ねる

止まらない

止まらない

もう誰も止める事が出来ない

求め合う身体は

果てるまで

ひとつになる

何故こんなにも私達は求め合うのか

互いに口にはしない

答えは闇の中

それでも構わない

落ちるとこまで落ちたていこう

出口のない欲望と

尽きない快樂

束の間の夢の世界

目を綴じると

真実が見えてしまいそうで怖くなる

だからジッと見つめたまま

ただ求め合う

分からないまま

求め合う

それが私とあなた

愛欲

あなたに会う度に切なくなって

あなたに求められる度に苦しくなる

抱かれれば抱かれる程

この身がこの心があなたに染まってしまう

もう会わなければいい

もう終わりにすればいい

だけど会わなければ

寂しくて

寂しくて

またあなたが欲しくなる

まだあなたにもう少しだけ

抱かっていたい

どうぞ私の身が枯れるまで

心が消えてなくなるまで

抱き尽くして下さい

抱いて抱いて

あなたの愛欲が尽きるまで...

疲れてる

時と共にあなたの周りが変わっていく

それは仕方が無い事

私はそれについては行けない

勇気がないの

あなたの見えない先に

きっと私はいないね

愛している

愛している

だけど

ちょっと疲れちゃった

あなたの幸せを願うけど



あなたのそばにいる事に

少し疑問を感じる

私はここにいていいのだろうか

私はあなたの何なんだろうか

都合の良い存在なら

あなたの隣はあの人に譲る

今夜は私疲れてる

あなたを好きでいる事に

甘えたい

あなたの背中に寄り添って

甘えたい

あなたを困らせるほど

わがまま言ってみたい

離れたくないって

駄々をこねてみたい

会いたいの

さみしいの

私だけを見て

そんな事

言ってみたい

きっと言わなくても

分かってるんだろうけど

たまには子供のように

甘えてみたい

SOS

きっとあなたは気づいてない

私のSOS

強がって

笑って

戯けて

ごめんね

私はそんなに強くない

あなたへのウソが増えていく

信頼ってなんだろう？

安心ってなに？

愛に甘えないで

私のSOS

見逃さないでよ

でも、きっとあなたは気づかない

ホントの私

悲しいくらい

寂しがりや

惨めなほど

ちっぽけな

哀れな私

あなたに抱き締めて欲しいのに

抱き締めてくれる腕が違う

私が壊れていく

早く私のSOSに気づいて

お願い

残酷な優しさ

君はいつも優しい

優しいけど

感じるよ

君の優しさはLOVEじゃない

LIKEの優しさ

終わりにしてあげなきゃ

いつもそう思うんだ

だけど

だけど弱い私は

サヨナラを

まだ言えないでいる

分かってるのに

ズルいよね

LIKEな優しさに

今日も甘えてる



セフレ

甘い唇

魅惑の指先

力強い腕

激しく熱く

愛し合う

この身に任せて

甘い言葉は

ベッドの上だけ

不思議なあなたと私の関係

足りないピースを埋めるように

私達は懲りもせず

また求め合う

孤独を紛らわす

寂しいあなたと私

悲しいあなたと私

こんな人間になりたくなかった

あなたが呟いたひと言が

今でも胸に突き刺さる

こんな人間は今でも生きている

あなたは生きてますか？

恋人

私ねこの位置気に入ってるの

アナタの恋人でいる事

誇りに思うわ

だってそうでしょ

友達なら

アナタに触れられない

妻ならば

生活を優先しなきゃ

でも私は恋人

アナタのやりたいこと

心から応援できて

フラットな位置から

話し合える

そして

時には甘く囁き合い

触れ合い

愛しあえる

なんの不純物もないわ

アナタが求める

私が受け入れる

なんて素敵な関係

私はこの位置がいい

後にも先にも

動きたくない

アナタの最高の恋人でいたい

ずっと

ずっと

想いが果てるまで

もう少しだけ

期待しないから

見返り求めないから

だからもう少し

あなたの心を見せないで

このままそばにさせてね

叶わないのは分かってる

だけど今あなたを無くしたら

私の明日が見えないの

朝誰を想い目覚めればいい？

誰に向かって微笑めばいい？

夕日に誰を思い出せばいい？

あなたを好きでいる事が

今の私には必要

もう少しでいい

一人でちゃんと歩けるまで

あなたの横にいさせて



前夜

逢うと胸が騒ぎ過ぎて

上手く話せない

別れ際は胸が苦しくなって

泣きそうになる

だから

私は

会う前の日が一番好き

明日あなたに逢える

逸る鼓動は止まらない

あなたの笑顔を

あなたのぬくもりを

思い描いて

枕に顔を埋める

明日のあなたは

どんな愛を見せてくれるんだろう

待ち焦がれたあなたを

想う前夜が

私の一番好きな時間

まだ

あなたの胸に顔を埋めた

震える肩をあなたはそっと抱き寄せる

ツライ？

うん、ツライ

もう、やめたい？

やめたい

あなたの抱き寄せる腕にチカラが入る

やめない...やめたらもっとツラくなるから

ごめん

好きになって...ごめん

あなたの切ないKiss

まだ夢から醒めたくない

私とあなた

夢が色褪せないよう

互いのぬくもりを

分かち合う

行けるとこまで

先がない私とあなた

ゴールは悲しみだけ

分かっているのに

どうしてこんなにも

愛してしまったんだろう

あなたの全てが欲しいわけじゃない

あなたのほんの少しの時間が欲しいだけ

なのにあなたが心を開くから

私はそれに触れてしまった

もう都合良くはできないわ

楽しいだけの恋じゃない

だけど...

あなたが私の手を離さない限り

私は先の見えないこの道を

ただ下り続けるだけ

お互い口には出さない愛を

繋いだ手が語りかけ

瞳で告げる

後ろには戻れない

リタイアはいつでもできるけど

あなたの愛がまだ見えるから

行けるとこまで行ってみよう

私とあなたのゴールはまだ見えないから

最後のあなた

あなたの惑わすような眼差しを

あなたの酔いそうな甘い声を

あなたの壊れるほどの抱擁を

あなたの蕩けるような唇を

あなたの躍るような指先を

あなたの火傷するような舌先を

あなたの染みるような汗を

あなたの突き抜けるような肉体を

あなたの

あなたの全てを

私の記憶に刻もう

気まぐれなあなたの愛

今日で終わりにしてあげる

だから

気の済むまで

私を抱いて

最後の愛の一雫

一滴残らず

私に下さい



サヨナラ愛しい人

とうとうだね

そうね

結構長かったよね

そうね

冷めた訳でもないが別れの会話

二人の会話

弾まない

熱く燃えるような恋ではなかったが

いつも心には君がいた

遊びのつもりだったが

いつしか僕にとって放せない存在になっていた

あれから三年数々の情事を君とは繰り返した

罪を重ねていった

でもとうとう潮時の時がきた

互いの家庭に戻る時だ

君を手放すのがこんなにも苦しいと思わなかった

いや、分かっていたが認めたくなくて

冷たく当たった時もある

何度も突き放そうとした事もある

その度に結局は抱き寄せてしまっていた

今日はそれを我慢しなくては

本当の別れは結構あっけないものだ

元気で・・・

ああ、君も・・・

互いに無理な笑顔で

サヨナラをした

一人になってみて

認めたよ

僕は君を愛していた

どうしようもないくらい

愛していた

サヨナラ愛しい人

幸せになってくれ



恋するキミの代弁者～禁断編～

<http://p.booklog.jp/book/86482>

著者：キミイ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kimiynoheya/profile>

AKHTAR AHMAD 表紙Photo

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86482>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86482>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ